

「疑似科学とのつきあいかた」2010.7.21

疑似科学とはなんだろうか

長島雅裕(長崎大学教育学部)

※先週の議論を思い出しながら考えてみよう

ホメオパシー：その後(1)

・ 5/26の授業で触れた件(おそらく)

「ビタミンK与えず乳児死亡」母親が助産師提訴

生後2か月の女児が死亡したのは、出生後の投与が常識になっているビタミンKを与えなかったためビタミンK欠乏性出血症になったことが原因として、母親(33)が山口市の助産師(43)を相手取り、損害賠償請求訴訟を山口地裁に起こしていることがわかった。

助産師は、ビタミンKの代わりに「自然治癒力を促す」という錠剤を与えていた。錠剤は、助産師が所属する自然療法普及の団体が推奨するものだった。

母親らによると、女児は昨年8月3日に自宅で生まれた。母乳のみで育て、直後の健康状態に問題はなかったが生後約1か月頃に嘔吐(おうと)し、山口市の病院を受診したところ硬膜下血腫が見つかり、意識不明となった。入院した山口県宇部市の病院でビタミンK欠乏性出血症と診断され、10月16日に呼吸不全で死亡した。

新生児や乳児は血液凝固を補助するビタミンKを十分生成できないことがあるため、厚生労働省は出生直後と生後1週間、同1か月の計3回、ビタミンKを経口投与するよう指針で促している。特に母乳で育てる場合は発症の危険が高いため投与は必須としている。

しかし、母親によると、助産師は最初の2回、ビタミンKを投与せずに錠剤を与え、母親にこれを伝えていなかった。3回目の時に「ビタミンKの代わりに(錠剤を)飲ませる」と説明したという。

助産師が所属する団体は「自らの力で治癒に導く自然療法」をうたい、錠剤について「植物や鉱物などを希釈した液体を小さな砂糖の玉にしみこませたもの。適合すれば自然治癒力が揺り動かされ、体が良い方向へと向かう」と説明している。

日本助産師会(東京)によると、助産師は2009年10月に提出した女児死亡についての報告書でビタミンKを投与しなかったことを認めているという。同会は同年12月、助産師が所属する団体に「ビタミンKなどの代わりに錠剤投与を勧めないこと」などを口頭で申し入れた。ビタミンKについて、同会は「保護者の強い反対がない限り、当たり前前の行為として投与している」としている。

(2010年7月9日 読売新聞)

助産師さんに浸透している？

- 乳児に与えるべき薬を投与せず、レメディを投与した結果、子どもが亡くなるということが現実に行き起きている

2009-10-22

お子さんが亡くなってしまいました

過日、K2シロップではなく、ホメオパシーのレメディをK2シロップとして助産師に投与され、1ヵ月後に乳児ビタミンK欠乏性出血症となったお子さんが、脳死に近い状態の日々から、天に召されたと、件のお母さんより連絡がありました。

当の助産師、保健センターとこれからのことを話し合っていくということで、お子さんのことを警鐘としていけたらと、話されていました。

「助産院は安全？」

<http://jyosanin.blog78.fc2.com/blog-entry-364.html>

- レメディは毒にも薬にもならない。しかし、レメディを投与することで、本来投与されるべき薬が投与されなければ、重大なことになりかねない。

ホメオパシー：その後(2)

- “The Japan Royal Academy of Homeopathy”が主宰するウェブサイトの掲示板への投稿

タイトル : 主訴は腎臓です。2歳で発病し、2年ほど入院し、今は通院しています。10歳になりました。

投稿日 : 2010/07/13(Tue) 11:34

投稿者 : 女性・愛媛県・とらのこ会

現在、子供が健康相談にかかりお世話になっております。

主訴は腎臓です。2歳で発病し、2年ほど入院し、今は通院しています。10歳になりました。

病院では、免疫抑制剤がだされ、毎日飲まなくてはならず、とても疑問を感じていたところに、ホメオパシーに出会い、やってみたいと強く思い、相談会を申し込みました。3回めの相談を受けたところです。

今は病院の薬は飲ませていません。

かんじんひぞう、バーバリスをとっておりますが、調子よさそうにしています。

ただ、やはり毒だしのレメディ(抗生剤、全身麻酔、胸腺の毒だし)をとると、**すごい好転反応がでてしまいます**。わかってはいますが、ちょっと続けられないくらい、顔、特に目がはれてパンパン、足もむくみ、蛋白尿がでて、みているのが辛くて断念してしまいます。

尿量は減ってはいません。血尿もでていません。

なんとか乗り切りたくて、好転反応の対処のレメディを担当の先生に聞いてみましたが、ヒットせず、毒だしを断念して終わってしまいます。

むくみや蛋白尿が出たときのレメディを教えてください。

インフルエンザや、溶連菌をレメディで乗り切ることができました。

このままレメディで腎臓をケアしていきたいのです。どうぞよろしくお願いします。

ホメオパシー：その後(2)

- 標準医療を忌避したととれる内容
- 「好転反応」…典型的な「言い訳」
 - ▶ 化粧品や健康食品でも持ち出されることがある
- 腎臓が悪いのに薬を止めると命にかかわりかねないため、多くの人が現地の児童相談所や医師会、警察などに通報し、主治医の確認が取れた。
- 本当なら児童虐待と言われても仕方のない内容
 - ▶ 親は善意なのだろうけれども

※投稿への回答

千葉先生

まず、むくみや蛋白尿に対するレメディーですが、エイピス(Apis), アーセニカム(Ars), カンサリス(Canth)などが良いものです。既に相談会を受けていらっしゃるということで、もうこれらのレメディーは試されているかもしれませんね。

好転反応が強くてお困りということですが、そういう場合には通常レメディーと共にマザーチンキを一緒に摂り、臓器サポートをすると臓器の機能が高まり、強い好転反応が出にくくなります。バーバーリスを取っていらっしゃると思いますが、これはマザーチンキのことでしょうか？ もし、マザーチンキを既に取っているにも関わらず…ということであれば、担当のホメオパスにポーションの変更してもらいましょう。LMポーションにしてみるという手段もあります。詳しいことは担当ホメオパスにご相談されてみてください。

ホメオパシー：その後(2)

- 一段落した後の、掲示板管理人による投稿
- 本気で「薬を止めるのはよくない」と言っているかはともかく、推進側にこう言わせたのは重要であろう

タイトル : Re: 主訴は腎臓です。2歳で発病し、2年ほど入院し、今は通院しています。10歳になりました。

投稿日 : 2010/07/16(Fri) 23:27

投稿者 : 管理人

記事No.3388の件で、このお子さんの状態を心配される投稿がありましたので、詳しい状況を本人に確認しましたところ、**ホメオパスからも勝手に判断して薬を止めるのはよくない**ので検査や現状把握のためにも病院に通うことは必要であると言われ、お医者さんとの相性が悪いということであれば、セカンドオピニオンで他のお医者さんに診てもらうのも一つの方法であると前回の相談会でも言われており、この点よく理解していますということでした。近々定期検査のため病院にもいく予定になっていますということでした。お子さんですが、現在は、体験談に書いた通り調子よさそうにしており、いたって元気で学校にも通っているとのことでした。

好転反応についてはかなり大げさに書いてしまったとのことでした。また、その好転反応ですが、投稿した内容からもわかるように過去のことで、現在はほんの少しむくんでいる程度で、こちらも近々ホメオパシー健康相談会を受ける予定になっており、そこで出されたレメディーをとって好転反応がでたときの対処方法を聞きたいと思って投稿したということでした。

今回は、いろいろな人がこの体験談をみて下さっているということがわかり嬉しく思うと同時に、心配してくれアドバイスしてくれたということにとってもありがたいと思いました。この度は、管理人として、注意や配慮が不足していたと反省しております。

今後とも何か気づいたことなどありましたら、ご連絡やアドバイスなどいただけると大変ありがたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

“The Japan Royal Academy of Homeopathy”

- 「2006年9月にロンドンにて開校、日本人の方を対象にしたホメオパシー専門学校です。」
- 学長：由井寅子氏
- ちなみにこの「学校」、オプションルコースとして
 - ▶ 英語コース
 - ▶ 東洋医学講座
 - ▶ 医学占星術講座
 - ▶ ヨガコースを設けている

ホメオパシーの問題点

- ホメオパシーの「レメディ」は、成分分子が一つも含まれないぐらいに薄めたもの
 - ▶ 「効く」わけがない
 - ▶ 「効いた」と思うのはプラセボ効果(詳細は以前のスライド)
- なので、作用もなければ副作用もない
 - ▶ 手順どおり作られたレメディならば
- では、「害」はないのか？
- 問題は、レメディをとることではなく、標準医療を忌避すること
 - ▶ すべきことをしなくなる

疑似科学(ニセ科学)の分類

- 多くの疑似科学を眺めてみると、「科学のようで、科学でないもの」(たとえば伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』)と特徴づけられるだろう
- 客観的な事実関係を争える事象について、客観的な事実(少なくとも事実と考えられていること)とは異なる主張を、あたかも客観的な事実であるかのように言う
 - ▶ 「間違っていることがわかっているのに、正しいと主張」
 - 血液型性格判断、『水からの伝言』、ホメオパシーなど
 - ▶ 「正しいか間違いかまだわからないのに、正しいと主張」
 - マイナスイオンと健康、神経神話、いくつかの早期教育など
- では、疑似科学の何が問題なのだろうか？
 - ▶ 無論、「間違った言説」が広まることは、様々な問題を引き起こすだろうけれども…

EMについて少し

- EM=Effective Micro-organisms, 「有用微生物群」
- 比嘉照夫・琉球大教授(当時)が開発、商品化
- 環境対策としても、各地(特に九州・沖縄)で使われている
- 「効能」
 - ▶ 「汚水の浄化」「生ごみを肥料に」
 - ▶ パンを焼いたり漬物を漬けたり、洗濯物の劣化防止にも
 - ▶ 家畜に飲ませたり、畜舎に散布して悪臭防止
 - ▶ 化学物質、放射線物質、農業による環境汚染、水質汚染、大気汚染、酸性雨、炭酸ガス公害、オゾン層の破壊などを解決
 - ▶ 健康飲料として！
 - ▶ 「末期の肝臓ガンが治った」
- 「万能」をうたうのが特徴
- 「いいことだけがあって悪いことがない『本物技術』」(船井幸雄)

EM

- EMについての県内の報道をいくつか
 - ▶ 『朝日』2006年9月4日付
 - ▶ 『長崎新聞』2010年6月9日付
 - ▶ 『長崎新聞』2010年3月22日付
 - ▶ 『長崎新聞』2010年7月21日付(今日!)

※公開スライドでは記事のコピーは削除しています

実態は・・・

- 「有用」の意味：人間にとって「いい」か「悪い」か。
- 研究者による追試：「有用」とされていた菌が見つからなかったり、使ってみても効果が見られなかったりした
 - ▶ 例：公開シンポジウム「微生物を利用した農業資材の現状と将来」日本土壌肥料学会（主催）
 - ▶ 毒にも薬にもならない？ 少くとも影響はある？
 - ▶ いずれにしても、劇的な効果は見られないようである
- 「長年、EMを扱うなかで、あまりに不思議な現象が起きるので、江本さんの著書『波動時代の序幕』を読んだところ、EMが起こしているのは『波動』ではないか。『波動』という視点を入れなければ説明できないことだと実感しました。」（比嘉照夫、『HADO』2007年11月号、p.8）
- 「EMさえやっておけば」となるのが最悪
 - ▶ 本当にやるべきことから目をそらされてしまう

環境浄化微生物資材 EMW(イーエム・ダブリュ)



品名	容量	価格(税込)
EMW	500 ml	¥ 1,050

EMのご注文は全国のEM販売店にて承っております。

EMWは、安全で有用な乳酸菌や酵母などの微生物を培養した液体です。効果は、EM1と同じ。色づきの心配がなく、柑橘系の香りです。EMWを薄めてひと噴きし、軽く拭き取れば雑菌の繁殖を抑え、衛生的な環境づくりに役立ちます。ご家庭での掃除や洗濯、シックハウス対策など用途は様々です。

2000.8.20発売
2008.4.1パッケージ・リニューアル

そんなに高くない
おそらく、本気で善意でやっていると思われる

菜園EMパウダー

家庭菜園用EMXセラミックスパウダー



品名	容量	価格(税込)
菜園EMパウダー	400g	¥ 1050

菜園EMパウダーのご注文は全国のEM販売店にて承っております。

菜園EMパウダーは、EMとEMXを混合した粘土を高温で焼成したセラミックスを微粉末(約7ミクロン)にしたものです。このセラミックスにはEMの情報が封入されており、EMの効果を安定的に持続させることが期待できます。また、炭化成分を含有させていますので、保肥力を高めると同時に、微生物の住処となるので、EMを土壌中に定着させるのに役立ちます。

【菜園EMパウダーの利用例】

- 1) 土壌改良
- 2) 病虫害予防
- 3) EMボカシへの活用

高温で焼けば微生物は死ぬ
「効果」の持続は期待できない

昨年12月、江本勝さんが設立した(株)IHMの20周年記念セミナーに船井幸雄さんと私がゲストスピーカーとして招待され、波動についていろいろとお話しする機会がありました。私はEMの本質的な効果は、関英雄先生が確認した重力波と想定される縦波の波動によるものと考えています。

これまで明らかとなっている波動は電磁波としてとらえられる横波であり、物質がエネルギー化し消失する一連の流れに沿ったものであり、エントロピーの法則に従うものです。重力波は、そのエネルギーの流れとはまったく逆の関係を維持する波動と言えるもので、汚染や低レベルのエネルギーを使えるレベルに集約し、そのエネルギーで物質化を促進する力があると言われていています。私はこのような現象をシントロピーと称しています。

重力波にそんな力はない。
比嘉氏が重力波をまったく理解していないことのあらわれ。
EMが使える範囲を明らかにし、トンデモな説明をやめる必要。

EM

- ホメオパシーと違い、なんらかの微生物は入っている
- つまり、使えば、なんらかの影響は出る
 - ▶ 人間の役に立つ場合もあるかもしれない
 - ▶ 害になる場合もあるかもしれない
 - 河川の富栄養化による汚濁など
- ちゃんとした検証が必要(「万能」を言う前に!)
- EMの問題点: 環境を維持・改善するためにはやるべきことが色々あるのに、「EMさえやっておけば」となりがちなところ
 - ▶ するべきことをしなくなる

疑似科学(ニセ科学)の問題の一つ

- 「すべきことをしなくなる」
 - ▶ ホメオパシー: 標準医療の忌避
 - ▶ EM: 地道な環境への取り組みの軽視
 - ▶ 血液型性格判断: 血液型で相手の性格を決めつけることで、その人自身を見なくなる。他人との関係を血液型に解消することで、問題の本質から目をそらす
 - ▶ 『水からの伝言』: 言葉を伝えるということ、コミュニケーションをはかるということが、単語そのものに還元されてしまう。人間性の軽視
 - ▶ 早期教育: 子どもと自分なりのやり方で向き合うことの軽視
 - ▶ 少年犯罪の増加という誤認: 犯罪が生じる真の原因を探ることから目をそらす。現実社会の誤認
- 「間違っただ道」に進むことは、「正しい道」を探ることをやめること→思考停止の道具
 - ▶ 無論、「正しい道」は一つとは限らない

「すべきこと」ってなんだろう

- 科学が教えてくれないこと。
 - ▶ 「…個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、…」(教育基本法前文)
 - ▶ 「…幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、…」(同法第二条第一項「教育の目標」)
 - ▶ 「…日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。」(日本国憲法前文)
- 我々の「合意」であり、一つの価値観である。

「祈り」の意味



長崎大学教育学部(長崎師範学校)原爆慰霊碑

「100匹目の猿」現象

- ライアル・ワトソンの作り話
 - ▶ 宮崎県・幸島のサルがイモを洗って食べ始め、他のサルがまねを始めた。洗うサルが100匹を越えたとき、大分県・高崎山のサルもイモを洗って食べた。という話。
 - ▶ 物事にはなにか閾値があり、そこを超えると、「場」が発生して伝播する、と主張（参照：「形態形成場」シェルドレイク、「シンクロニシティ」ユング）
- 「念ずれば通ず」ということで、「ありがとう、愛・感謝と祈りましょう」と江本らがよく使う。
 - ▶ 「起こったことは必要、必然、ベスト」「工業化社会の弊害も必要必然だった」（「百匹目の猿—『思い』が世界を変える」船井幸雄、p.110）
 - ▶ 「肯定思考が健全な生き方をつくる」（同、p.126）
- 「ニューエイジ思想」

「祈り」と世界

- みんなが祈れば/願えば/望めば世界は変わるか？
 - ▶ みんなが世界平和を願えば世界は平和になるのか？
- 「誰が」「何が」世界を変えるのか？
 - ▶ 「ありがとう」は誰が解釈するのか？
- 価値判断を下すのは誰か？
- 「祈り」は無意味なのか？誰が意味を与えるのか？
- **科学は教えてくれない。**
 - ▶ 参考にはなる。
 - 「歯を磨きなさい」「やだ」「磨かないと虫歯になるよ」「いいもん」「虫歯になると痛いよ」「…わかった」
 - 「痛いのは嫌だ」という価値判断が、「面倒な歯磨きは嫌だ」という価値判断に優先した…科学的思考(事実関係)を参考にはしたが、最終的な決断は価値判断である
 - ▶ **事実を学べば判断も変わり得る**

私の場合

- 個人的な意味づけ(人によって様々だろう)
 - ▶ 犠牲者や遺族の方々に思いをはせ、
 - ▶ なぜ原爆が落とされたかを考えつつ、
 - ▶ 自分の研究との関係を思い出し、
 - 核物理抜きに天文学はできない。星のエネルギー源など
 - ▶ 未来に向けて、自分はどのようにするのかを考えるきっかけとする
- 決して「祈ることそのもの」が核兵器を無くすとは思わないが、そのために何をするのか、自分の心を整理する機会である
- 方法も目的も私個人の判断。人によって違っていい。

科学の意味

- 科学には限界がある
- しかし、科学によって、とても多くのことがわかってきた
- 科学を「どう活かすか」を考えなければならない
 - ▶ それは、我々の社会が下す「判断」
- そこを見極められないと、他人や「もの」に判断を委ねることになる
 - ▶ 水に聞いたり、血液型に頼ったり…
- 科学を盲信せず理解することが、人間の役割を明確にし、人間性を尊重する土台となるのではないか？
- 我々は「あやふやな世界」に生きている。自律的に判断することは、大変なこと。しかし、「主体性の放棄」という「魅力的な解決」を選択していいのだろうか？
 - ▶ もちろん、全部自分で判断しては、実際問題やっていけません…

疑似科学を学ぶ意味

- 単に、世の中にはびこる「間違い」を知る、というだけではない
- 「間違え方」を深く理解すれば、今後、「大きな間違い」を避けられるのではないか？
 - ▶ 授業で取り上げたのは、その意味で「練習問題」。世の中には、判断に迷う厄介な疑似科学がまだまだいろいろある
- 疑似科学を学ぶことは、科学の限界と存在意義を学ぶこと
- それは、人間の尊厳を理解することでもあるかもしれない